〔照屋仁士議員 登壇〕

○5番 照屋仁士君 それでは、皆さんおはようございます。私、初めて一般質問のトッパッターをさせていただきます。大変緊張をしております。私にとっては議員になってから2期7年半、議員生活を締めくくる最後の質問と位置づけております。内容を含めて非常に迷った点もありますけれども、これからの町政にとってさまざまな課題と展望を見出すためにも、是非とも議論をしたい内容を選びました。町長を初め執行部の皆さんには、前向きなご答弁、また、これまでの内容を含めてしっかりとご答弁いただきますようよろしくお願いいたします。

1. 城間町政5期20年の課題はということであります。城間俊安町長、まだ5月まで任期は残されておりますけれども、議会としては本3月定例会が最後の議会となります。本当にご苦勞、多数あったと思います。私も議員になる前から町長の姿勢にはいろいろな立場で学ぶことが多くありました。町長職というものはやった人にしかわからないような、大変長く、時にはきついこともあったかと思えます。今後の後進のためにも是非その一端をご教授いただければと思います。私自身は、議会においてなかなか町長に質問することはできませんでしたが、最後ですので町長の思いや考え方を是非、ご自身の言葉でご答弁いただければ幸いです。

まず、(1) 5期20年にわたり、町政発展に取り組まれたことを評価する。勇退するに当たってやり残した課題はあるか。(2) 町民との対話が少ないという声があります。行政懇談会の数も少ないし、町の取り組みを知らせる発信もホームページと広報紙がありませんけれども、十分とは言えません。町長はどのように考えるかお答えください。(3) 財政が心配との声があります。先日出された中期財政計画においては、平成34年度までに一般会計は約30億円弱も削減をしていかなければなりません。その中で町税をふやしていく取り組みは示されているとは言えません。町長はどのように考えるかお答えください。

(4) 今後のまちづくりが心配との声があります。近隣では大型MICEや鉄軌道の話題が議論される中で、南風原町では何に展望を見出すかと町民の皆さんに聞かれます。町長の見解を伺います。(5) 町民の命と財産が心配であるとの声があります。先日行われた東部消防組合議会においても、予算審議の際に町長から、「予算が足りなければ、人件費も考えないといけない」というような答弁がありました。その趣旨は、思うところはあると思いますが、厳しい財政は理解できます。しかしながら町民の生命と財産を守るため、是非強化すべきと考えますがいかがでしょうか、お答えください。(6) 町長の政治姿勢が問われています。建白書の実現、すなわちオスプレイの撤去、普天間基地の県外移設の実現など、また辺野古新基地建設阻止について町長もこれまで考えを述べてまいりましたが、考えは変わらないかお答えください。(7) その建白書の精神に基づいて言えば、なぜこれまで政治姿勢とは矛盾する候補者を応援してきたのか。今後はどうしていくのか。その内容、その姿勢をお答えください。以上7点、よろしくお願いいたします。

○議長 宮城清政君 町長。

○町長 城間俊安君 仁士議員、ありがとうございます。私も5期20年を迎えようとしております。その間においては町民、議員の皆さん方、執行部の皆さん方、みんなの協力があってこれだけ長らく、20年を過ごすことができたと思って、本当に感謝申し上げます。また、その中において私は、平成10年の町長就任以来、一貫して「子どもたちには愛を、若者には夢と希望を、お年寄りには安らぎを」と、これをみずからの信条として1期目から私は子供たち、若者、お年寄りにそういう精神を注いでまいりました。その中においてさまざまな課題解決に取り組んでまいりましたが、これまで多くの施策が展開できたこともひとえに議員、国・県を初め関係機関、町民の皆さんのご理解とご協力のおかげであり、感謝申し上げたいと思っております。これまで私が掲げた公約については達成したと自負しておりますが、しかしながら20年間行政運営の責任者として感じたことは、限られた財源の日々変化し山積する行政課題と住民ニーズを100%解決することは非常に困難であると、考えております。今後の課題については、後任に課題を託してまいりたいと。その中において、やはり国保の問題等においても、一貫して南風原町が国保の問題、大きな課題を残しているのは南風原町だけではなくて、沖縄県全体的な視点だと私はそのように考えております。その問題等においては、今度、平成30年度から保険は一元化されますので、その中において市町村だけが責任を負うのではなくて、県がことし、平成30年から一元化の親元になりますので、市町村がやってきたものを県もやってもらいたいと。県も道義的責任を負ってもらいたいという思いが、大きな課題なのかなと思っております。

また、町民との対話が少ないということですが、私はこれまで個人、団体間

3月20日（第5号）一般質問

ず、さまざまな機会でも多くの町民の皆さんと対話してきたつもりであります。行政懇談会やホームページ等での対話も重要であります。日々お会いする皆さんの生きた意見を伺うことが重要であると考えております。今後もできるだけ多くの機会やツールも活用して、町民のご意見が反映できる仕組みづくりが必要だと考えております。

3点目の財政の問題であります。これまで全ての世代が安心して暮らせる利便性の高い活力あるまちづくりを推進してまいりました。その結果、私が就任した平成10年から28年までの町税の決算額を比較すると、約21億3,000万円から38億5,000万円と1.8倍伸びております。21億円から38億円に伸びたというのは、倍近く町税も伸びてきたものだと私は感謝申し上げたい。その中において徴収率は6.2%も上昇しているという、県下でも優秀な、トップ的なリーダーマンとして徴収率は走っていると思います。職員の皆さん方の頑張りだと思っております。また、南風原町の中期的財政計画においても、子育て支援を初めとする各福祉施設や企業誘致を前提とした地区計画も盛り込んでおり、「すみたいまち、住み続けたいまち南風原」のブランド力を高めていく方針を示したものであり、その結果、住民の所得向上や資産価値の増加につながり、さらなる町税増につながるものだと思っております。一つの事例として、私たち南風原町においては土地利用の問題等にこれまで力を注いでまいりました。その中において一番大きな課題は、南風原町の農振地域でありました。今、南風原ジャスコのあの一帯については農振地域の農振法を活用されて、農地からジャスコ南風原店が、さらに映画館も、農地にこれだけ農振法を活用されている大きな企業が誘致できたというのも、私たち南風原町の雇用にもつながったものだと思っております。さらにニトリにおいても、税収が今まで入ってこなかったのを、これに対してもニトリさんが那覇市から受けてもらって、これも大きな企業誘致につながった。また、新川に、ゴルフ場レンジ跡にスズケンが来たというのも、このスズケンというのも大きな変わったものだと思っております。そういう面でもこれに対してまちづくり、南風原町の雇用につなげながら、企業も誘致しながら進めていこうと。さらに、南風原の南インターチェンジ、ファーマーズの向かい側、向こうも用途見直しをしようという、地区計画をしよう、今回の予算。地区計画をすることによって、こっちに企業が大大的に入ってくる要素があります。さらに、神里地区の旧太陽の町、向こうにおいても用途の見直し等において変えていこうという大きな動きをやっておりますので、そういう面では本当に南風原町においてはいろいろな角度から、財政が厳しい中においては企業の皆さん方が参画できるような状況のもと、地づくりも進めているということをご理解をお願いしたいと思っております。

4点目のまちづくりが心配との声があるということですが、昨年第五次総合計画を策定しました。同計画は南風原町の将来像を展望し、目標を達成していくことが町政を預かる者として責務だと考えております。ご指摘のMICE、また鉄軌道については沖縄県全体の振興に資する重要な施策であると認識しております。南風原町だけではなく、MICE、鉄軌道においては沖縄県全体的な視点での問題だと考えております。また、広域的な視点から国・県・近隣市町村との連携や調整を行いつつ、南風原町にとって有益なまちづくりにつながるよう意見を述べていきたいと思っております。同時に、県全体の課題と町の最優先課題は、全てが一致するものではないと。県全体の課題と南風原町の課題は異なっている部分もあります。本町の行政課題解決を地道に行っていくことが、おのずと南風原町の明るい将来展望につながるものだと思っております。その第五次総合計画を中心に進めてまいりたいと思っております。

また、5点目の町民の命と財産が心配との声があると。東部消防の問題ですが、本町は平成30年度予算編成より中期財政計画を基本としてまいりましたが、普通交付税の試算で対前年度比2億円の減額となっております。例年、普通交付税は、県からの指導は予算計上するときにおいては、前年並みの予算計上をしていくような状況がありますが、途中から前年並みでやっていたのが、交付税が約2億円という金額となりました。そのことから財政調整基金を同程度、取り崩しての予算編成を余儀なくされました。その東部消防、構成町においても厳しい財政状況であり、東部消防組合の負担金は削ったのではなくて、前年並みを確保しており、消防力は維持できるものだと考えております。今後も同組合の中期計画や構成町の財政状況を念頭に、予算査定を通して分担金を決定してまいりたいと。その間において構成町、おのおの南風原町、西原町、与那原町、やはり町においても財政健全化計画を進めてまいりました。その中において、東部消防組合においても無駄はないかどうか検討していくことも大事だと。今、消防力においては、東部消防組合というのは県下で一番優秀な消防力を有しているものだと評価している。県からも東部消防組合に対しては優秀だと。消防力においても優秀だと評価されているし、さらに他消防がや

3月20日（第5号）一般質問

っていない職員の前倒し採用をしたというのも、他の消防と異なっているものだと。これに対して消防と行政との違いは、消防は退職が5名いたら、退職した後から今まで5名採用であったら、この5名は即戦力になるかとなると、採用されて半年、6カ月は消防学校、2カ月は実践、病院で研修があると。そうすると、退職されて8カ月は消防の力になっていないということを考えたら、やはり前倒しして採用することは、安心・安全を維持するためにそういうことにも力を注いでおります。他の消防がやっていないこともやっていたということ、ご理解をお願いしたい。今回予算が厳しいから安心・安全に不安を与えるようなことではなく、これを維持していこうという思いであります。今度も消防に対して、各町が行っている財政のヒアリングも行いながら、無駄はないかどうかを検証しながらやっていくことが大事だと。そういう面で、今後はそのように続けていきたいという考えであります。消防力の低下にはつながらない、維持をしてまいりたい。県でも優秀な消防だということは、ご理解をお願いしたいと思っております。

また、6点目の政治姿勢が問われているということですが、これまで私は「平和」、「自立」、「共生」の実現を目指し、世界の恒久「平和」を願う町民の心を町内外へ発信し、平和行政に取り組んでまいりました。建白書の精神を維持しており、現在も変わっておりません。と申しますのは、建白書作成においては私も6団体の長として、町村会の代表として、41市町村の代表として私は建白書の堅持においては先頭を切っており、私もその建白書の作成の一人でありますので、代表の一人でありますので、それに対していまだかつて、その建白書の趣旨は今でも変わっておりません。

さらに7点目、政治姿勢は矛盾すると言われておりますが、私は南風原町の町長であります。県全体の課題と町の最優先課題は全てが一致するものではありません。県全体の課題と南風原町の課題は一致しない部分もあるものだと考えております。本町の行政課題解決を目指すには、政治姿勢には一部の違いがあっても町益を最優先するためには、協力が必要だと考えております。今後もそのように、南風原町長とすればやはり町益を一番最優先して考えていくのが私の務めだと思っております。そのようにお願いします。以上です。ありがとうございます。

○議長 宮城清政君 5番 照屋仁士議員。

○5番 照屋仁士君 ありがとうございます。全て町長自身にお答えいただきました。ありがとうございます。順を追って、再質問をさせていただきたいと思っております。

まず、1点目のこれまでにやり残した課題ですが、答弁の中では公約についてそのほとんど、その全てを達成したということでおっしゃっておられます。その一方では、やはり山積する行政課題、また住民ニーズということに関しては日々変わっていくもので、その限られた財源の中で解決することが非常に困難であったというようなご答弁をいただいております。私も町の内情については、議員になって2期7年半しかわかりません。町長のこれまでのたくさんの実績は、理解をしているつもりであります。さまざまな施設整備や、またこども医療費無料化を含め、黄金森公園野球場のトイレ整備、伝統芸能育成補助金、街灯のLED化、自治会支援など、私自身も議会で提案したことを幾つも実現していただきましたことに感謝をしております。今、改めて町長、やはり公約は達成したけれども、住民のニーズ、行政課題は残されていると、そういう認識があるとご答弁いただいております。その認識、国保の問題を取り上げていただきましたが、その次の町長に託すといったところで、やはり申し送りをしていきたいもの、またそれに対してどのようにこだわられてきたか。そういう思いも含めて、再度ご答弁いただければと思います。

○議長 宮城清政君 町長。

○町長 城間俊安君 ありがとうございます。町民ニーズというのは、毎年毎年、日々変わってまいります。これに対して町民が、私たちがよかれと思っているもの、方針を示していたが、しかしニーズがまた変わってきて、方向も変化してまいります。やはり冒頭でありました国保の問題、これに対して一貫して、私たちは以前は、国保は約5%は一般会計からいつも補?しておりましたが、しかしながら国に対してこの課題を見出すためには赤字は赤字、これを一般会計から補?するのではなくて、国から見ると、補?すると赤字ではないのではないかとと言われるから、きちんと国保の問題は赤字は赤字と出したほうがいい。議員の皆さんからも提案があり、私も同意見で、そのように南風原町は平成二十五、六年でしたか、それから一般会計からは出さずに、赤字をそのまま国に見せようと思つて、これだけの差があるのだと。これに対して矛盾というのは、やはり国保の制度そのものは、全国的にはいいと私は評価しておりますが、しかしながら沖縄県にはなじまないというのは、前期高齢者の課題。前期高齢者が少ないというのは、この課題の中においては戦争の負だと私は思っております。戦争の負というのは、昭和19年生、20年生、21年

3月20日（第5号）一般質問

生、この3年で極端に沖縄県、南風原町の住民が少ない上に、その方々が前期高齢者に入らない。査定基準から少ない上に補?が少ないということは、大きな国の不備はそこにあるのではないかと。これに対してどうにかしてもらいたいということを再三再四、要請してまいりました。これに対しても全市町村、また県も同意見であります。これに対して国も理解しながら、しかしながら見直しはできないと。そういう状況のもと、でもどうにかこれを補?するためには、やはり子供がたくさんいらっしゃる、また所得が少ない、貧困が多いと。こういう部分に査定をやっていって、少し手直しをやってまいりましたが、しかしこれだけでも足りないという状況。この問題等においては、今後も継続してまいりたいと。どういうものが大きな課題なのか、これに対してはあとしばらく検証して、また次の町長に対しては、「こういう課題があるからひとつお願いしたい」ということを申し伝えしていき、まとめていきたいと思っております。そのようにご理解をお願いしたいと。その中において町長をやって一番よかったというのは、県全体も大きく変わったのは、不発弾の問題。私は一貫して、町長に就任して、不発弾の問題等においては国がもたらした負だから、当然不発弾処理に対しては国が費用を出すべきではないかということを書いておりましたが、私が就任したときは費用の2分の1は特別交付税に入っていますと。2分の1を負担していますと。しかし、特別交付税に2分の1は算入されているとお話がありましたが、ではこの算定項目はあるかと言ったら、算定項目はないと。まやかではないかという思いで強く再三再四、私は県、国に対して不発弾の問題を取り上げて、でも他市町村からも、南風原町長が手を挙げると「また不発弾なのか」と言われるぐらい。私が手を挙げると、「また不発弾だ」と言われるような、これぐらい他市町村からも、議員からも言われたというのは、私はみずからもむしろ評価すべきだと。これだけインパクトを与えたものだと思っ、それに対して費用においては国の費用、また処理費、事務費等においても、土曜日か日曜日にやる場合においては職員に代休をやっておりました。これは代休ではなくて、国がもたらした負の処理をするためだから、国が当然出すべきだということ国が出すようになった。これも事務費はやるし、ライナープレート、前は素掘りだったのを、素掘りをやると避難距離の範囲が拡大されると。これを縮小するためにはライナープレート。これに対してライナープレートを活用させれば避難距離も半減された。そうすれば、避難を誘導する職員、警察、消防の皆さんにも大きな励みになったのかと。こういう面では私たち、地上戦においては与那原、那覇から首里に向かって艦砲戦、射撃においては不発弾が多々出てまいりましたので、これに対しては、ここ数年前から国が理解して処理費を国に補助してもらったというのは、本当に再三再四に申し上げたのが、みずから大きく評価すべきだと私は思っております。しかし、町民の皆さん方、県民も恐らく今が当然だと思っいらっしゃるが、しかし実際は、現実には費用は市町村の負担だったということをお忘れかけていませんかという思いがしております。そういう面、大きな課題は後でまとめて、また次の方に託してまいりたいと思っております。

○議長 宮城清政君 5番 照屋仁士議員。

○5番 照屋仁士君 ありがとうございます。先ほども述べたように、私も町長の実績は評価をしています。しかしながら、やはり答弁でもありました国保の問題については、いまだ解決はしていないと。先ほど答弁の中では県の問題もあると。県が努力する義務はあるということをおっしゃられていましたけれども、再答弁の中ではやはり国の責任についても町長、これまで触れてこられました。これもまだ解決しなければいけない課題であります。その大きなものとして、やはり今年度の予算においても10億円近くを補?するという予算が示された中で、今後の国保の値上げについても町民が不安に思っている。この課題、そのほかにも今おっしゃったようにさまざまな課題があると思っておりますので、是非ともその過程、町長しか知り得ない内容もあると思っております。是非次の後進に託していただければと思っております。

次の質問に行きます。対話が少ないというところでもあります。答弁の中では、日々お会いする皆さんから話を聞き取ってきた。当然そういうところはあると思っております。町長も普段から触れ合いを大事にされていると理解しています。しかしながら、その機会というところで考えると、今行政懇談会、ホームページ、そして電光掲示板という3つが大きく、町としては発信のツールとして挙げられています。そのような中で、やはりそれでは少ないだろうという理解の中で、議会のほうでも議会報告会を開催し工夫を重ね、広報紙についても議員みずから手配りをし、さらに先日開催された区長会との意見交換会など、日々町民に知らせる努力を行っているところでもありますし、私自身もそういうことに取り組んで提案をしてきてまいりました。そういうこと言えば、この制度設計であったり、仕組みづくり、そういうことが必要だと感じています。町長も答弁の中で、今度も仕組みづく

3月20日（第5号）一般質問

りをするということでおっしゃっております。是非とも今あるものだけでなく、新しい方法も含めてやっていく。そのような姿勢が必要だと思いますが、町長ご自身のご見解を再度お願いします。

○議長 宮城清政君 町長。

○町長 城間俊安君 町民に対して知らせるということは、私は基本だと思っております。これに対して行政懇談会だけではなくて、それ以上に何かいろいろ模索することも大事ではないかと思っております。例えば私たち行政懇談会が、以前は毎年やる中において、町民、各字を訪問するときにおいて10名、15名、多いところが30名とか、執行部よりはむしろ少ない状況。こういう状況、同じようなパターンでいいのかと。これに対していろいろな工夫を凝らしていくことが、町民が一人でも多く参加できるような状況、仕組みづくりが大事ではないかということをごらから申し上げております。こういう面では、町民が行政懇談会に参画しないというのは、私たち行政の魅力がないから参加しないのではないかと。参加しやすい、参加しなければ損すると。マイナスになると言えるような、何か参加しやすいような仕組みづくり。いろいろな工夫、みんなアイデアを出してやっていくことが大事だと思っております。また町民に対して何でも意見を聞けるような仕組みづくり、模索を、今度も最善の努力を尽くし、今どういう方法がいいのか、職員を挙げて考えております。こういう面では毎年毎年、旧態依然のままではなくて変えることも大事だと。とにかく一人でも多くの方が参加しやすいような状況づくりをやっていくことも大事なのかと思っております。是非そのように進めていきたいと思っております。

○議長 宮城清政君 5番 照屋仁士議員。

○5番 照屋仁士君 ありがとうございます。以前も一般質問でも指摘をしました。決められた内容もなかなか実現できていないというのが現実であります。町民から今、町の情勢がどうなっていると、こういうのがなかなか伝わりづらい。そういう声も現実にあります。今町長がおっしゃったように、あらゆる手段、今までどおりではなくて、これからのことを考えながら変えていくことが大事。そのように私も理解しておりますので、次の質問に進めます。

財政の問題であります。これまで財政の件についても、町長の就任されたこの長い期間の中で発展してきたことは理解できます。当然、この20年の年月の中で町の状態は変わりました。人口も大きくふえております。そういう中で税収がふえてきたわけですが、改めてその財政の仕組みについて、私自身も非常に難しく、複雑な要素が絡むと実感しています。前回の12月議会でも指摘したように、現在の中期財政計画では歳入の見込みがほぼ人口増だけになっています。かたく見るということは否定しません。しかしながら町としての取り組み、その姿勢というものが、町長は今答弁でおっしゃいましたけれども、この計画の中には財政策、新たな収入、その文字しかありません。その中身だけでは、町の取り組みをふやしていくという姿勢が見当たらない。その中で町の取り組みは勘案されていないと指摘しないといけないと思います。一方でふやしていく町税について、その動向についても前回の一般質問で「把握はでき得る」と回答をいただきました。しかしながら、その把握についての調査・検討がなされていない。町税をふやしていくことについて、「検討がされていない」とご答弁されています。そういう町長ご自身のご見解、先ほど企業誘致の話もありましたけれども、財政的な仕組み、やはり複雑ですけれども、解きほぐしながら町税を、町民の所得を上げていく。そのような姿勢が必要だと思いますがいかがでしょうか、お答えください。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 町長の指示でございます。私、財政担当部長ですので、お答えいたします。

中期財政計画で人口増だけだというご指摘でございますが、我々税の統計をとるには、当然人口だけではなくて、過去の傾向を勘案して個人住民税、法人税、固定資産税、軽自動車税、あとは交付金関係ですが、そういうものを加味して編成はしました。おっしゃるとおり、かために行っています。大体財政計画というのは歳入は厳しく、歳出はほぼ10割ぐらい、10割といいますか、そのような見込みで行うのですが、平成30年度の予算に地区計画を計上しました。毎年予算編成においても、財政状況は厳しいのだが、後々税収増につながるものは積極的に提案してくれというのも予算編成方針で出して、各部にも予算編成してもらっています。今回、南インターチェンジ付近の地区計画、もしそれが実現すれば、多分今農地ですので何十倍か、もしくは三桁の割合で伸びる可能性はあります。あの面積が仮に全て実現すればですね。そういうこともございますので、積極的に税収増につながるものは図る。実は固定資産税、直接見ると固定資産税はこういう計画を入れること

3月20日（第5号）一般質問

でもくろむことはできるんですが、これを反映させればかなり取らぬ狸の皮算用的な話になりますので、その辺はやはり財政危機というのは、入るは厳しくというスタンスは踏んでいます。こういう財政の展望なのですが、何と言っても地域の土地利用の見直しは不可欠です。当然、収用で入ってくる業者については緩和措置があるんですけども、南風原で是非、利便性の高い南風原で起業したいと。営業を書を移したいという要望は非常に多いんですけども、これに全て対応できる地区計画になっていないと。用途がそれに合致していないというのがあります。以前から那覇広域を脱退とか、そういうことまでも話が出るという状況であります。やはり税収を見越すには都市計画の見直し、それが不可欠です。あとは、民税については町長からも答弁がございましたけれども、個人住民税については、住みやすいまち、利便性が高い、子育てしやすいとなれば人が入ってきます。自然増、種改造を含めると、今の統計からだと個人住民税は平成27年度が492、納税義務者。744、401、657というふうにふえています。これは多分、人口増の比率からいっても多くふえていると思います。これは国の政策も相まっていると思います。最低賃金の底上げ、そういうものもありまして、非課税の人が課税になったということも見込めるのですが、どうしても直接的な税収増になると、税率の引き上げというのも直接的なものになってきます。あとは最低賃金の引き上げ、これは国レベルでないと直接的な施策は打てない。市町村でできるのは転入をふやすというのがベースになると思います。等々あるのですが、それらも含めて、これまで住みやすいまちとか、利便性を上げて企業を誘致するというのは十分実現というか、計画どおり進んでいると思いますので、向こう5年の中期財政計画もそれは加味されているという考えで私は認識しております。これまでの伸びにそういうもろもろの施策が反映されての税収増につながっているということでございますので、今後もやはり税収増については積極的に取り組んでいくということになると思います。以上です。

○議長 宮城清政君 5番 照屋仁士議員。

○5番 照屋仁士君 ありがとうございます。答弁の内容は理解できます。私が指摘しているのは、財政の仕組みは難しいけれども、もう少し解き明かす余地があるのではないかと。このことを指摘しているつもりであります。企業においても、設備投資をすることによって生産性が上がる。これだけ投資をすれば生産性がこれだけ上がって、これだけ収益がふえる。そういう目標設定をしながら持っていくわけです。町の中で個別の施策はやっているけれども、その費用対効果についての設備投資に対するリターン、そういう視点が足りない。そういう指摘をしているつもりです。理解は同じだと思いますので、それは引き続き進めていきたいと思っております。

また、町長は盛んに、少ない財源で最大の効果を得る、そのことには非常にこだわって取り組んでこられたと思います。あらゆる有利な補助制度を活用すること。そのことの注力をされてきたことを評価しています。しかしながら町民の所得、法人税額、それは確かにふえていますけれども、単価で割った場合、いろいろな要素が絡み合うとしても、その中で町民の所得が確実に向上していると言い切れるまでには至りません。幾ら有利な補助制度を活用しても、それが町民の暮らしに、町内事業者の収益につながっていなければ、お金だけが膨らんでたつた1割の負担、2割の負担であっても、それが町債の残高となって膨らんでいる。そのような見方も考えられます。町長はどのように考えるか、お答えいただければと思います。

○議長 宮城清政君 町長。

○町長 城間俊安君 今、税収を上げる、所得を向上させるためには、やはり私は企業誘致も大事だと。それと子供たち、南風原町は昨年度から医療費の無料化を含めて、病院にはお金を持たないでも診察、また薬をもらって帰れるという現物給付もさせてもらいました。そうすることによって、早期発見、早期治療をすることによって子供たちは健康で、また医療費の抑制につながるものだと思っており、さらに保育園、私たちは待機児童が、毎年園をふやしながら定数をふやしているのにも関わらず、それ以上に転入、待機児童がたくさんいらっしゃるということは、これだけ南風原に住みたい、また利便性の高い町だから南風原に行こうという環境につながっているのではないかと。そういう面では、その中において待機児童、定数一過性で終わらせるのではなくて、毎年毎年これに対して応えてくるためには、私は基本的には、子供さんを授かったら国の制度も、仕事をやっているから預けることができるが、仕事をやっていると預けることができないという、これに対しては私は逆だと。仕事をやっていると預かるような保育体制をつくるのが一番大事ではないかと。そうすれば預かることによって、仕事をやっても預けることができれば、親は心にゆとり。そのゆとりがあれば、仕事をやっ

3月20日（第5号）一般質問

ていなくても次はパートでもやってみよう、仕事をやってみようという、そういう効果は個人個人の所得の向上につながるのではないかと。こういうことを緻密に、すぐ目の前でできるのではなくて、時間を長期的な視点から考えても、子供さんを授かって保育園が、行政が預かることができれば、仕事をやってみなくても、また次はゆとりがあれば仕事をやってみたい。仕事をやってみればまた所得につながっていくのではないかと、こういうことも私は大事だと。さらに、冒頭に申し上げました、南風原町においては今、南インターチェンジ、また神里の旧太陽の町跡、また新川の沖大のグラウンド用地跡、向こうにおいても大きな企業が行きたいと。そういうことも見出しておりますので、そういう面では新川にも大きな企業誘致、さらに南インターチェンジ、さらに神里、こういう面ではいろいろな用途の見直しをしながら、また事業主が環境を整えていけば、その中においてはまた雇用につながり、所得向上につながるものだと。こういうことの繰り返しをやっていくことが私は大事ではないかと思っております。

○議長 宮城清政君 5番 照屋仁士議員。

○5番 照屋仁士君 ありがとうございます。理解は同じところも当然あります。子育てを安心してできる環境をつくるのが働く人数をふやし、所得を上げると。また、企業誘致を実現すること、土地利用を見直すことで上げていく。それは理解できます。ただ、やはり私が指摘しているのは、先ほどから繰り返し言いますけれども、自信を持ってそれがつながったという分析、そして今後、こうしていくと、こういう取り組みをすることでこうい利益がある、利点がある、それをしっかり示す。そういう姿勢が大事だと思います。私も何となくつながっているような気がします。今、安心して暮らせる、そういう安心感も必要ですけれども、明確に町民に、この取り組みはこういう利益につながる。示していくことが大事だと私は考えております。

次に行きたいと思っております。そのまちづくりについてであります。先ほどの答弁の中にも、町民の皆さんで協働でつくった第五次総合計画の件が触れられております。そのことは議会でも承認したことでありますので、私たちもそのように考えています。また一方では、第四次総合計画まで挙げていた4大プロジェクトについても、1点目の黄金森公園、2点目の文化センター・中央公民館、そして総合福祉センターについてはよかったと、ほぼ進んでいると理解していますけれども、なかなか津嘉山北地区の区画整理を初め、全てが完結したとは言いがたいと思っております。こども医療費無料化を初め、保健福祉分野の支出が年々大きくなっていっています。第五次総合計画を中心にとありますけれども、その中でも将来に向けてどのようなまちを目指すべきか、町長も感じているところがあるのではないかとと思っておりますが、見解を伺いたいと思っております。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 将来の展望と伺いますか、やはり我々が考えていることは、先ほどの議員、税収のお話をしますが、政策的に一番わかりやすいのは津嘉山北地区の早期に使用収益を与えることですね。利用してもらって、ここでいろいろな経済活動をしていただいて税金を払ってもらおうということがございますので、今後は、区画整理事業は制度的に保留地を処分して、それを事業費に充てていくということがございますので、早目に集中的な投資も必要だということを考えています。ただし、前年度あたりからでしょうか、沖繩の公共投資関係の補助金がかかなり削減されて、結構ペースがダウンしております。これは区画整理に限ったことではないのですが、ほかのハード事業についてもそういう影響を受けているということがございますので、よく言う集中と選択ですね。その辺も必要ではないかと。特に区画整理、向こうを早めに完結して利用してもらいたいというのは、町は大きな課題と伺いますか、目標となっております。あとは、子供の待機児童の解消ですね。それもいつまで待機児童解消と保育園の増が続くかということなのですが、そこも非常に大きな課題でございますので、この辺が今後の大きな課題になろうかと考えています。以上です。

○議長 宮城清政君 5番 照屋仁士議員。

○5番 照屋仁士君 ありがとうございます。町長もこれまでさまざまな公約を掲げ、実現した。しかしながら、まだ残された課題がたくさんあると。一つには絞り切れないという趣旨で総務部長に答えさせたのかと思います。そういう意味では第五次総合計画、当然それを進めていくわけですが、町民の皆さんに何を示していくか。そういう姿勢が今行政にも問われているのではないかとということをお指摘したいと思っております。

次に進みます。町民の命と財産が心配ということところです。その答弁の中でもありましたとおり、普通交付税の試算段階よりも実際の交付が減ったと。答弁では試算で2億円減額とありますけれども、そうではないと私は理解していますが、試算段階ではこれぐらい入

3月20日（第5号）一般質問

るはずだったものが、2億円減額されたので急遽組み直し、穴埋めができなかった。そのように理解していますが、そのような理解でよろしいですか。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 予算編成は、10月ぐらゐの見込みの時期的なもので作業は始まりますので、各課から出していただく歳出、歳入ですね。それを含めて年越しで予算編成してまいります。その途中で最終的な国の地方財政の計画がございまして、そこを踏まえたときに当初の見込みよりも、実際の試算をしたときに2億円、これは臨時財政対策債も含めてなのですが、落ち込みがあったということでございます。2回、試算はしていますので、きちんと県から示されたもので、これは1月下旬ぐらゐだったと思います。それによると、当初といいますか、年内12月までに試算していたものと比較して、2億円以上のマイナスの差が出たということでございます。

○議長 宮城清政君 5番 照屋仁士議員。

○5番 照屋仁士君 この予算の、年度末に近づいてから新たな試算によってそうなったと。要するに、当初の試算よりも減ったという理解の中で、当然、全体を組み直すことは非常に大変な作業だと理解するわけです。答弁の中では低下したとは言わないと。現状でもすばらしいから維持して生きたんだというような答弁でした。別に、私も低下しているという指摘は一つもしておりません。何度もありますが、今回の東部消防組合から示されました中期計画、これは策定過程の段階から私たち議会にも途中経過が示されてきたわけですけれども、非常に職員、また関係者の熱意が詰まった計画であると理解しています。その最終的に示された案の中で、当初示されていた予算財源が抜かれましたけれども、それも非常に厳しい予算背景の中でなかなか具体的な数値に踏み込めない。そういうことはあるとは思いますが、どちらにせよ、文言の中から読み取れたものは、大きく充実強化に向かっていくものだと私たち議会も理解をしていたところでありまして。しかしながら今年度の予算措置を見ると、構成町の財政状況を勘案するとは言え、大きく伸びるといって強化されると理解していたのが現状維持になった。そういうところでは、非常にこの計画と矛盾するのではないかと。そういう中で消防議会の中でもいろいろな質問がかわされました。今、町長がおっしゃったように、今でも充実している、これは理解しています。でも、あの計画の中では人数もふやしながら、もっとさらに充実をしていく、強化をしていくという計画だったのにもかかわらず、やはり現状維持で行かざるを得なかった。それが現状だろうと思いますが、そこには管理者として、予算には反映できなかったが、次年度以降しっかり積み上げていくというような意思を反映していただきたかったと理解しています。改めて、町長の思いを示していただければと思います。

○議長 宮城清政君 町長。

○町長 城間俊安君 答えします。東部消防組合、命、安全・安心を守る消防です。で、そういう面では私は要望というのはきりがないと思うんです。消防というのはやってもやってもきりがないのが現状なのかと。だからそういうことにおいては、少しは立ちどまって検証することも大事なのかと。その中において大きな課題は、今の本消防庁舎の耐震度のことを考えると計画的に、またこれも今の現地で本部にいいのか。また、場所を移動したほうがいいのか、こういうことも含めて是非検討課題として待ったがきかないのも消防庁舎なのかということも思っておりますので、是非これに対してはいろいろな角度から予算を工面しながら、また庁舎の建設に向けて進めていきたいし、また消防車の規格、はしご車等においても昨年度、すばらしい35メートルまでできるような高規格車を、高層ビルが与那原町、南風原町、西原町等においても高層ビルができてきておりますので、これに対応できるような消防力を、また備品をそろえていく。これに対しておくれをとらないうように是非進めていきたいと。これに対して、ただ消防だけ要望があった部分をすぐ検証しながら、3町とのヒアリングもやっていくような体制を今後つくっていかないといけないのではないかと。今までヒアリングが甘かった部分もありはしないかと。ただ、消防というのは事務との違い、職種の違いがありますので、重要視しなければいけない部分がありますので、これに対して再度ヒアリングをしながら、今後も検証しながら、予算編成は今後も進めていきたいと思っております。

○議長 宮城清政君 5番 照屋仁士議員。

○5番 照屋仁士君 消防議会では、ことしの予算に関して留意事項がつかまりました。どんなに厳しくても充実をしていく、町民の命を守っていく、それがあの計画にあらわされているわけですから、補正予算も含め検討するということという留意事項がつかまりました。是非町長のほうからもその重要性を執行部の皆さんに問いかけて、投げかけていただければと思います。

3月20日（第5号）一般質問

6点目に行きたいと思います。建白書の実現、辺野古新基地建設阻止について考えは変わらないというところでした。何度も町長自身、同僚議員の同じ質問にも答えております。しなしながら、議会の中で何度も何度もその政治姿勢を示してきておりますけれども、町長としてはどのように政治姿勢を示してきたのか。町長、この議会だけではなくて、いろいろなところで町民と触れ合う中でそのような機会があるのかと思います。町長自身、どのようにその政治姿勢を示してこられたのか、お答えいただければと思います。

○議長 宮城清政君 町長。

○町長 城間俊安君 建白書については、私はみずから責任者の、代表の一人でありますので、これに対して堅持するということが、一貫して皆さん方に何回もお答えしております。さらに、政治姿勢においては、私は南風原町長であり、町益のことを一番最優先すべきだと。私的な部分、異なっている部分においても、やはり町益については最優先していくのが町長ではないかと。これに対して建白書のもものは堅持しながらも政治姿勢というのは、また南風原町長としての立場は、町益を守っていくのが町長だと私は思っております。

○議長 宮城清政君 5番 照屋仁士議員。

○5番 照屋仁士君 建白書の実現については、その趣旨のとおり、41の市町村、また41の議会、そして県議会の全会一致というところで町長もご尽力をされ、つくり上げた側にいらっしゃいます。そういうところでは町民に大きな平和に対する思い、この沖縄の理不尽な状況に対する思いを共有した一つの大きなきっかけだったと思います。しかしながらその立場上、町長自身、町民と行動をとるということが非常に難しかったのではないかと。私自身もできていないことがたくさんあります。そういう意味では町長、私の理解では、島ぐるみ会議の中でも共同代表を務められたり、その町民の皆さんと意思をとるということはたくさんあったと思いますが、今の答弁の中ではなかなかそれもうまく立場上できなかつたというような、悔やまれた言葉が聞かれたと理解していますが、そのお気持ちのほど、どのようにお考えかお答えいただければと思います。

○議長 宮城清政君 町長。

○町長 城間俊安君 先ほど申し上げましたように、個人的ではなく、南風原町長として職を、名前を授かっているときには、南風原町益のことを最優先に、これが南風原町長の務めだと私は思っておりますので、そういう意味でご理解をお願いしたいと思っております。

○議長 宮城清政君 5番 照屋仁士議員。

○5番 照屋仁士君 町益を優先するという答弁ですが、多くの町民がこの問題は共有するものですので、その思いを同じくすることも町益にかなうものだと私は理解しております。

次の質問に行きます。政治姿勢と矛盾する候補者を応援したのかというところであり、ことしの11月に県知事選挙を控えます。翁長雄志沖縄県知事を誕生させたのは、城間俊安町長の功績も非常に大きいと私は理解しております。多くの町民もそれに賛同をしていると思います。一方でその直後の衆院選で、同じくオール沖縄の礎を築いた地元南風原町から出馬した、気心知れたはずの候補者を応援せず、町民党であるはずの町長が政治姿勢の違う政府与党の候補者を応援し、その後の直近の参院選も同様に支援したと理解しております。その背景には、苦しい胸のうちを含め、町長の町益とありましたが、そここのところがあるのかなと思います。その一端を町民の皆さんに示していただければと思います。どうぞお答えいただければ、お願いします。

○議長 宮城清政君 町長。

○町長 城間俊安君 お答えします。建白書の問題、私は堅持すると。その中において今の県知事、翁長知事が市長のとき、一緒になって建白書を作成してまいりました。その翁長知事が那覇市長のときに、今回の県知事選においては、翁長雄志氏は市長から県知事に立候補したいということで是非ご協力をお願いしたいということがありました。これに対しては、私も今の翁長県知事が市長のとき、南風原と那覇とのごみ処理施設の問題、最終処分場の問題、以前に信頼関係を失ってまいりました。那覇市と南風原町との協定書、最終処分場においては生ごみは埋めません、覆土はきちんとサンドイッチでやります、処理水はきちんと処理して流しますと、3つとも不履行でした。これに対して翁長さんが那覇市の市長になったときに、一番最初に取り組んだのが今の翁長雄志であり、その方は言いわけはしないで、処分場においては生ごみは日量40なり50トン、処分場に捨ててまいりましたので、これを即指摘されて、そのままその分、浦添に委託をし、さらにサンドイッチ方

3月20日（第5号）一般質問

式、以前は燃えた灰でサンドイッチにしていたものを、翁長市長が誕生して、その方は覆土はきちんと土で覆土をやりました。処理水においては機械の機能が処理水、果たせないということ。また機械を変えて、8,000万円かな、処理水をきちんと処理するようなこの姿勢を見て、翁長雄志県知事においては、この工程において言いわけはしないで一つ一つ実現をしてもらったと。そういう人間であれば、私は翁長雄志さんは人間性としてすばらしいし、私はサポートしますと。そのかわり、国政においてはいろいろな目線から、また町益のためにいろいろお願いする部分、国と連携しないといけない部分はあるから、また今までも過去においても、感謝するのはたくさんあると。そういうことを考えると、県知事においては翁長さんを応援しますと、国政においては異なっていくが、そういう形でご理解をお願いしたいということで県知事との約束も。国政においては今までの流れ、また感謝、また今後の南風原町の町益のためにはこういうことを行いますよということは理解し合いながらやった経緯がありますので、これに対しては、私は一貫して当初からの考えと変わっていないし、また今の県知事においても人間性から評価しているし、さらに国政においては、私は南風原町長であり、南風原町を第一に優先して私は町の利益につながるような行動をしたいということでやっているから、私は一貫して矛盾はしないと見ております。

○議長 宮城清政君 5番 照屋仁士議員。

○5番 照屋仁士君 町民の利益を考え、町益のために行動していると。そういう答弁だったと思います。その町益ですけれども、町長の言っている町益ですね。よく世間では政府とのパイプ、与党とのパイプ、そして予算を取ってくるというようなお話を聞きます。今、町長が町益とおっしゃる、その町民の利益とおっしゃるその言葉の中には、そういう趣旨、政府とつながっていることによって予算が潤沢に流れてくる。予算がもらえる、そういうことが含まれているのか。その辺についてご答弁いただきたいと。経験談も踏まえて是非お願いします。

○議長 宮城清政君 町長。

○町長 城間俊安君 お答えします。町益というのは予算だけではなくて、人間性ももちろん。情報、お金をもらうだけ、補助金をもらうだけではなくて、やはり情報を得ることも一番大事ではないかと。情報提供をしてもらう。また、情報を活用して町がいろいろな事業に着手することも大事なのかと。また、人間性の部分から私は町益につながったものだと思っております。

○議長 宮城清政君 5番 照屋仁士議員。

○5番 照屋仁士君 そういふところでは政府与党の情報網、そして提供されるもの。特に予算とか、政府とのパイプ自体だけではなくて、そのパイプの中身というのはお金ではなくて情報とかが主であると。そのような理解でよろしいですか。そういうところでいけば、やっと今度の5月の退任をもって、町長という重責から解き放たれるわけでありませう。町長を退任された後も、これまで20年間勤められてきたわけですから、その功績ですとか、影響力に関しては今後も続いていくものだと思います。その今後のことを踏まえると、退任後、その政治姿勢、これまでの町長としての権益、町民の利益を守ってきたという重い役割から解き放たれるわけですから、今後の行動について、やはり建白書堅持に向けて町民と一緒に行動するとか、そういうことをどのように町長がこれから行動なさるのかなと町民の皆さんも期待しているところであります。その辺についてどうお考えか、お答えいただければと思います。

○議長 宮城清政君 町長。

○町長 城間俊安君 私は20年間を迎えようとしております。今後についてはいろいろな角度から、高所大所から考えながら進めて、今こっちはすぐ、今後はどうのように行動するとか。高所大所からまた考えながら進めていきたいと思っております。

○議長 宮城清政君 5番 照屋仁士議員。

○5番 照屋仁士君 是非町長のこれまでのご経験ですね、高所大所と言わず、その大きな影響力を町民と一緒に、町民と同じ目線でまたご教示いただければとお願いして、次の質問に移ります。

2. 投票所を改善せよであります。（1）期日前投票の場所が混み合っただけで不便との声があります。町民ホールへ変更できないかお答えください。（2）投票をしやすくするためには、より行きやすい場所の選定や会場をふやす、より便利にする必要があると思っておりますが、そのような考えはないか、お答えください。

○議長 宮城清政君 総務部長。

○総務部長 新垣吉紀君 選挙管理委員会につきましては総務部の所管ですので、私のほ

3月20日（第5号）一般質問

うから答弁いたします。

まず1番目でございますが、投票所の選定につきましては、第一にまず有権者、投票する方の利便性を考慮して決定しております。ご質問の趣旨もあつたことから、それを踏まえて2月の定例選挙管理委員会において、期日前投票所は、これまで3階にあつた庁議室から1階にある町民ホールに変更することが決定されております。

続きまして、2番目でございますが、選挙管理委員会においても投票所の選定については、投票者の利便性を考慮して選定しており、今後も情勢の変化等を見据え、柔軟に対応してまいります。以上です。

○議長 宮城清政君 5番 照屋仁士議員。

○5番 照屋仁士君 期日前投票の場所について、私も以前に提案をさせていただいたことがあります。期日前投票という制度が定着してふえてきた中で、非常に混雑しているという声もたくさん寄せられました。不便であるという声もありました。これを速やかに享受されて変更されたという点は、非常に評価をしたいと思います。あわせて、今後の当日の投票所についてもイオン南風原店を取り入れたり、ただ津嘉山のほうでは公民館が工事中ということもあつて、前回の選挙でもご不便をかけました。そういう点は有権者の声であつたり、さまざまの声を聞いて、今度も投票率の向上に向けて随時改善していくという姿勢が必要だと思いますが、選挙管理委員会の中でそのような議論、どのようになっているか、議論の内容も含めて、委員の皆さんのご意見なども含めてご答弁いただければと思います。

○議長 宮城清政君 総務課長。

○総務課長 儀間博嗣君 選挙管理委員会においては、投票者が利便性がいい投票所を、常に選挙が終わった後に議論として出てきております。先ほどの答弁であつたように、情勢の変化等を見据えて柔軟に対応してまいりますというようなことを基本にやっております。前回は衆議院議員選挙が急に行われて、関心が高まつたということもあり、また当日に悪天候が来て、非常に期日前投票が例年になく多かつたということがいろいろな声として上がっているということも理解しております。今回のように町民ホールに変更するように、選挙管理委員会において、行った選挙の課題などを十分に検証して、今後も柔軟に対応していくということは確認されております。

○議長 宮城清政君 5番 照屋仁士議員。

○5番 照屋仁士君 ありがとうございます。大きく2点質問いたしました。私も3月議会、トップバッターで非常に緊張もしましたが、私にとつても最後の質問でありました。町長におかれましても、この5期20年間を締めくくる、同様の質問が同僚議員もあるようですが、最後までしっかり答弁いただければと思います。私もこの質問をもって議員辞職の願いを提出しますので、改めて執行部の皆さん、また同僚議員の皆さんにも大変お世話になりました。ありがとうございました。これで質問を終わりたいと思います。